

新井 恭子氏 京都女性起業家賞（アントレプレナー賞）の京都府知事賞（最優秀賞）受賞  
「建設ディレクター®育成事業」



2019年2月 最優秀賞を受賞されました

本会会員の新井 恭子さん（京都サンダー株式会社 代表取締役）が、今年2月に第7回京都女性起業家賞（アントレプレナー賞）の京都府知事賞（最優秀賞）を受賞されました。

京都府の広報 HP によると「建設ディレクターという新たな職域を提唱し、育成講座の開講と資格付与を行い、京都でも深刻化している建設業界の人手不足解消に貢献するとともに、女性の新しい働き方として

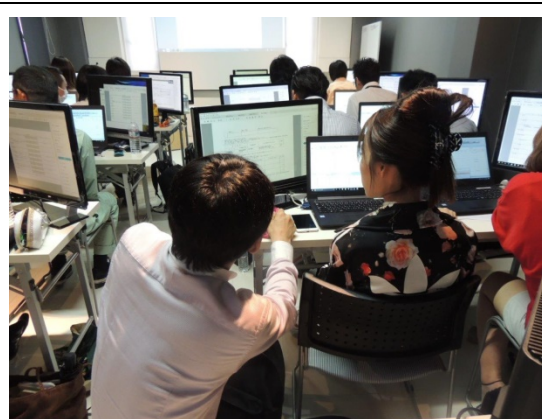
本事業を広め女性活躍推進に寄与する」ことが評価されています。

新井さんを訪ね、受賞に繋がった「建設ディレクター®育成事業」について伺いました。

建設ディレクターとは、積算ソフトや IT サービスなどの建設現場支援ツールを提供する京都サンダー(株)が新たに提唱し推進する「職域」です。新井さんは建設現場に足を運んで業者のニーズを聞き取る中で、常態化している技術職の長時間残業に対し、マンパワー不足解消と女性の活躍促進を結びつけるアイデアとして考案されました。

新井さんによると、技術者が日勤後に残業して工事書類を作成している一方で、事務職は技術者の指示・判断を待ちながら内業を補助しており、なかには有能な事務職が技術者の困難を知りながら助けることができない状況があると言います。建設ディレクター育成は、事務職が土木技術や現場作業にまつわる基礎的な知識を身に付け、事務所に勤めながら技術者と連携して情報を共有することで、事務職の能力・待遇の向上や新たな人材の発掘が期待できます。技術者にとっても工事書類作成の負担が軽減されるため、勤務条件の不均衡や非効率な時間が解消でき、職場環境の好循環化に貢献します。

建設ディレクター育成講座「基礎編」のカリキュラムの日程は全8回。およそ2か月かけてコミュニケーションスキルやチームビルディングなどの能力開発のほか、施工管理、積算、電子入札、図面の読み取り、CAD、写真整理、会計など建設基礎知識を学びます。条件によっては受講料の45%にあたる厚生労働省助成金を受けることができるそう



「建設ディレクター」受講風景

です。この講座をきっかけに、今まで建設業界への就労に足踏みしていた女性たちが、時短と高給が叶う魅力的な職場だと気づいてくれれば、という願いが込められています。

さらに、同社が建設ディレクター育成事業に関連して進めているのが ICT の活用による建設業の効率化を図る施策 **i-Construction** (アイ・コンストラクション) への参画です。新井さんの話では、同社が関わる「名張川右岸河道掘削工事」は国土交通省が全国から選定した「施工の労働生産性の向上を図る技術」全 19 件のプロジェクトの一つとなっており、同社が提供する定点ビデオカメラの映像が、タイムラプス再生による短時間での作業の進捗確認や振り返り、事後対応に役立っているといいます。建設ディレクターにおいては、こうした IT 技術の活用で現場作業内容を可視化し、内勤の事務職が臨場感をもって現場と関わることをイメージしているということでした。

-----

#### 取材後記

建設ディレクターという職域は、労働の困難をシェアするという時流にかなった現代的なソリューションであり、働き方改革と人材発掘が実現でき、多方面へ好影響が及ぶ素晴らしい提案だと思います。新井さんのお話は、大変よく整理されているうえ揺るぎない説得力があり、おそらく長年課題に向き合われた成果から解決のヒントを少しずつ得て、試行錯誤しながら具体的な道筋を定められてきたのだらうと感じました。また、建設ディレクターは女性の活躍の場を広げることを第一に想定されていますが、建設ディレクターという職域が成熟しセキュリティ環境を整えば、女性に限らず在宅内勤やアウトソーシングといった形態が確立され、子育て中の女性(男性)や様々なハンディキャップを有する方々のニーズに応えうるのではないかという希望も感じました。

京滋コンクリート診断士会は、建設ディレクターの今後の発展と、新井さんのますますのご活躍に大いに期待して、微力ながら応援していきたいと思う一日でした。

取材担当 山口、藤津